

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300072		
法人名	有限会社アダモ		
事業所名	グループホーム風		
所在地	静岡県富士市神戸738-6		
自己評価作成日	平成29年9月28日	評価結果市町村受理日	平成29年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jigyosvCd=2292300072-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落ち着いた環境の中で自分らしく過ごせる生活環境を整備し介護のお世話をさせていただいております。
 医療面サポートも提携機関協力の元、出来る限りのサポートを致します。尚、看取り介護の対応も可能です。通院対応においても市内であれば施設対応にて同行受診致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玉砂利や木製お散歩橋、富士山溶岩の石積花壇と、温かみと品格のある庭園には愛らしい山野草が足元を飾り、「こんな家で暮らしたいなあ」と思わせる瀟洒な建物内部では利用者と職員の笑い声がさざめき、日頃の信頼の深さが伝わります。居宅介護支援事業所、福祉貸与、通所介護も運営する法人代表者が管理者を兼ねていることから、「なんでも言って」の声がけとともにその実現性は高く、「原則残業なし」はリフレッシュ休暇の検討に発展し、「働きやすい環境」であることが強みです。また管理者が地元の役を担っていることや、事業所近くにデイサービスの開設を予定しており、益々地域との関係に期待が膨らんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践できているとは言い切れないが、管理者と職員が意見を出し合い、理念に如何に近づけるかの努力は日々している。	「自分の親を預けたい仕事をしたら、いいサービスはできますね」と常々職員には言ってきたせいで、「認知症介護の三大原則が理念実現にピッタリ」として掲示しています。	「皆実践できていると思うが、バラつきはある」とのことなので、個人目標の設定等達成度、浸透度が客観的に判るツールがあると、なおよいと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の活動・行事には住民と同じように参加、役員等の業務にも従事している。子供会の神輿周りの休憩所として迎え入れ等もあり。	管理者が過去には組長も担い、今年は生涯学習担当となり地域の一員としての存在感を放っています。どんど焼きにもでかけ、子ども神輿にジュースを配り、「車いすが必要なときはいつでも～」と声をかけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会へと働きかけ、必要時には相談及び見学等の対応をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告に対して意見・感想を述べていただき、当事業所において何が出来るかを検討・実践している。	公的な立場である部外者の対応について「いかがなものか」と先方に苦言を入れてくださったり、「案内板があるといいね」と助言があったりと、民生委員と町内会長が中心となって定期開催が叶っています。	スライドショーなどによるビジュアルでの紹介や、ヒヤリハットや事故報告による開示も加わると、なおよいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取り、意見を伺っている。	創業者や二代目など若い経営者で集う「新生会」では、管理者が小学校の福祉体験の講師に出向いたり、行政の期待に副う活動に取組むほか、法人でも高齢者向けの体操教室をボランティア運営しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議で身体拘束について話し合い、拘束をしないケアの取り組みをしている。	日中玄関施錠はなく、リスクマネジメントとして防犯カメラを設置しています。現在拘束や検討が必要となる症状の利用者もなく、一時性、代替性、切迫性の書面も備わり、何か気になる点があれば事例研究も兼ねて職員間で協議しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のケア会議における啓発、職員のストレスチェック等により虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、一般職員への説明は不足している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となり書面及び来訪時に口頭にて聞き取り及び状況報告をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議録、ケアプランを全職員が目を通せる形にし、意見があればそれを盛り込める仕組みをとっている。	何かあれば便りを発行し、毎月の請求書には1ヶ月の様子や写真を入れる等して、現状を伝えるよう努めています。敬老会をはじめ主たる行事には声をかけていますが、足を運んでくださる家族は疎らです。	遠方の家族が半数、運営推進会議の出席も少ないことから、引き続き家族との情報共有への検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを密にとり、会議等において意見を聴き取り、必要な事については反映させている。	「なんでもいって」と言うだけでなく、実際速やかに実現していく管理者の下、職員は言いたいことが言えていて、例えば裏庭のスペースを畑として再活用することも職員からの進言です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が最終的なシフト・勤怠管理をしている。顧問社労士に相談し適正な労働管理を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内等を回覧し、受講希望者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の民間企業と連携を図り、合同研修を年2～3回程度実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添った介護の実現をモットーに全職員へと周知、利用者ごと担当者を決め馴染みの関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の打合せを最低3回実施、ご自宅等に訪問し聞き取り調査を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う介護を心掛け、第二の生活の場として安心感を与えられるよう日々指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な電話連絡、来所時の報告・要望の聴き取り等安心してご家族が生活できるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会が出来、必要時には外出ができるよう支援している。	一番遠くに住む家族は栃木ですが、それでも月1回は面会に訪れていて、事業所でも「振込みではなく直に費用を届けてほしい」とお願いして、関係が途切れないよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を入居者全員で行えるようにしている。食事を同じ時間にとり馴染みの関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	イベント時は可能な限り声を掛け、いつでも来所し相談を受けれるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎週1回、利用者の状況を確認し、ケアプラン等の見直しが必要かどうかを検討している。	例えば食事介助では「飲み込みをしっかり見たい」として近めに寄り添う姿があり、意図を以て取り組んでいることが諸所確認できます。また本年から始めた家庭菜園は大収穫で、利用者の張り合いとなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを全職員が目を通せるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々職員同士が利用者の状況を確認し合い、理解に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員の意見を吸い上げたケアプランの作成をしている。	4月に法人内で異動してきた介護支援専門員が加わったことで次の2点の改善向上が進んでいます。①介護計画書に遅延がない。②職員会議、ケア会議、赤ペンの書き込み等で職員が参画できるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録及び送りノートを活用し情報を共有、必要時には計画に見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフによる同行受診、墓参りなど可能な限り施設対応にて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントには出来る限り参加をし、地域住人との関係が深めることができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は提携医療機関へと切り替えていただいているが、要望があれば他の病院受診が出来るよう支援している。	「通院介助は負担だ」「訪問診療では3～4倍の費用が～」等の顧客満足に応える姿勢を以て、事業所の協力医への受診送迎を管理者が一手に引き受け、医師との関係並びに医療情報を確かなものとしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約、週1回状況報告をし健康チェックをお願いしている。必要に応じて相談・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も常時状況確認のため通院し、今後の支援内容を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプラン見直し時にその都度看取りについて意向を確認し、どのような支援が可能か話し合いを行っている。	此处2年看取り実績はありませんが職員は皆経験者で、また社内研修を年3回おこない学びを積むなかで、訪問看護事業所の健康チェックでの週1の来訪を2と増やし、看護師には職員の医療に係る悩み事に応じてもらえています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成、半年に一度対応訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練、町内活動の参加により支援体制を構築している。	非難経路の確認とともに防災業者も立ち合っただけの通報訓練を終え、次回は担架を使った訓練を予定しています。「AEDを使ってください」と地域に呼びかけができていますが、未だ連携体制は整っていません。	防災士及びフェローを取得した職員が法人内にいることを、今後大いに事業所訓練やネットワークづくりへ生かしていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアの心得を習得し、失礼のないお世話が出来るよう会議に指導している。	「嫁さんにしたいなあ」の冗談もペース&リードで同調を以て上手に躲したり、「寒くない？」と手を握り合っしてスキンシップしつつ体調を確認したりといった深い想いと技が見られ、安心感のあるサービスが展開しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る範囲で個別対応している。 美容院、墓参り、買物等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプラン作成時に検討し、それに沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えは利用者の状態に関わらず行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本メニューは決まっているが、内容によってはその人が好む食事形態をとっている。	「少しずつたくさんの種類を」との想いのこもった献立は、たんぱく質の摂取が十分です。2名に介助が必要となり、その他にも刻みやペーストが増えているものの、職員の声掛けと目配りが絶妙で朗らかな食卓です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を日々管理し、最低水分摂取量はクリアできるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施、必要時には歯科医院の受診対応となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを汲み取り支援している。歩ける方は可能な限りトイレを利用している。	個々のパターン把握が出来ています。円背も進みベッド上のオムツ交換が必要だった人に歩行訓練を繰り返した結果リハパンへと向上して、夜間も職員に付き添われてトイレでできるまでに成った事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ野菜、乳製品等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個室対応、リフト浴どちらも選択可能、入浴剤等を使用し気持ちよく入浴が楽しめる空間を提供している。	リフト浴となった利用者が4名いますが、取り外しできる手すりもあり、全員が湯に浸かる喜びを味わえています。浴剤も使い週2回を目安とし、ゆず湯をおこなうこともあります。	入浴におけるレクリエーション(楽しみづくり)を一度職員間で話し合うことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室空間を広く取り、落ち着ける環境の整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を全スタッフが見るができるようにしている、新たな処方薬については必ず口頭でも効能・注意点を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、食器を拭く、下膳する等その人に応じた役割をお願いし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きつけの美容院・販売店、墓参り等を施設にて対応し支援している。	受診支援での帰路アイスクリームを食べたり、玄関前のテラスや桜の木の下の芝生で外気浴、お茶を楽しんでいます。法人内のデイスサービスから大型車車輛を借りてのドライブが4、5ヶ月ほど途絶えているため「もみじ狩りに行こう」との企画が挙っています。	年間行事計画の策定を習慣化させ、外出支援も大きな企画はその中に位置付けることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より一定額をお預りし管理者が管理、必要時には家族に了解をいただき必要な個人の嗜好品等を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者に対して実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた空間を維持し自分のペースで生活が出来るよう掲示物はあまり壁には貼らないようにしている。室温・湿度は常に管理し必要時にはエアコンにて調整している。	曜日で係を決めて清掃状況もよく、また職員の気遣いや言葉のクオリティも高く、居心地のよいリビングです。富士山の溶岩や草花を愛でることのできる昔ながらの廊下からは沓脱石(くつぬぎいし)を経て戸外へ出ることもできます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・居室とは別に仲間で過ごす場所を屋内外に一カ所ずつ用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外の持込み品は基本的に制限していない。各居室にアンテナ線を引っ張っておりTVの持込みも可能としている。	「部屋番号では味気ない」と花の名前に替え、職員手作りの表札や暖簾が下がり、ノスタルジックな雰囲気があります。収納力の高いクローゼットが備わるためか、遺影やテレビの他には大きな持ち込みはみられません。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限りなく自宅に近い環境を提供できるよう、大きな掲示物・看板は貼らずに落ち着いた空間を提供している。		